



地域外の参加者を積極的に呼び込んだ取組の発展

と やすし せせらぎの郷（滋賀県野洲市）

- 本地域（野洲市須原地内）集落内の高齢化が進み、担い手が年々減少する中、地域の農業と環境を守る集落ぐるみで一致団結できる新たな取組が必要だった。
- 「農地・水・環境保全向上対策」と「魚のゆりかご水田プロジェクト（田んぼと琵琶湖との連続性を保つために排水路に魚道を設置し、在来魚を保全する取組）」を活用し、琵琶湖の生きものと人が共存し、持続可能な農業を目指す取組を展開。
- 「魚のゆりかご水田」でのイベント（田植え体験、生き物観察会、稲刈り体験）、水田オーナー、地域サポーター、大学、行政等の地域外の参加者との交流を積極的に行い、意見や要望等を聞きながら、活動の工夫や「魚のゆりかご水田米」のPR・販売を実施。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、昭和47年から始まったほ場整備が行われる前は、田舟を使って農業を営むクリーク地帯
- ほ場整備によりクリークは埋められ、生産性と利便性が向上した反面、普段の暮らしの中で川や琵琶湖との関わりが希薄となり、身近な生きものの価値や水辺環境の良さに気付くことが困難に
- 集落内も高齢化が進み、担い手が年々減少する中で、琵琶湖と人々が身近だった関係をもう一度取り戻し、地域の農業と環境を守る新たな集落ぐるみの取組が必要



ほ場整備前の須原集落内のクリークと田舟

取組内容

- 集落が一丸となって取り組みを始めた「魚のゆりかご水田」を持続可能な活動とするため、「水田オーナー制度」を導入し、田植え体験、生き物観察会、稲刈りの体験イベントを実施
- 大学のインターンシップの受け入れ、大学への出前講座など、教育機関と連携した環境学習を実施
- 米のブランド化や地酒の製造販売による6次産業化、JAが行う東京での収穫祭と連携し、地元農産物のPR活動を実施

【平成29年度の活動実績】

- ・田植え体験(80名参加)、生きもの観察会(210名参加)、稲刈り体験(100名参加)
- ・一部、無農薬、無化学肥料栽培の実施
- ・鮎寿司漬け体験(21名参加)
- ・東京の大学からゼミ合宿受入(15名)
- ・国内外から視察研修受入(12団体)
- ・「魚のゆりかご水田」活動動画をyoutube、HPに掲載 等

【地区概要】多面的機能支払交付金

- ・取組面積 46.48ha(田)
- ・資源量 水路5.0km、農道4.3km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会、子供会、PTA等
- ・交付金 約2百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同)

取組の効果

- 「魚のゆりかご水田」を中心とした活動を集落内の人々だけでの農村環境保全活動に留めず、最初から「魚のゆりかご水田米」のPRや販売の仕方まで視野に入れながら取組を推進
- イベント等で集まった水田オーナーや地域サポーター、大学や有識者、行政等との交流を積極的に行い、意見や要望等を聞き、次に繋がるように工夫しながら活動を展開
 - 無名だった須原集落が、「せせらぎの郷」として平成23年度全国豊かなむらづくり表彰事業をはじめ、数々のコンクール等で受賞されるほどに地域が発展



HPでの「魚のゆりかご水田米」のPRと生き物観察会の様子